

2025年4月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年12月13日

上場会社名 HEROZ株式会社
 コード番号 4382 URL <https://www.heroz.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 林 隆弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森 博也 TEL 03 (6435) 2495
 半期報告書提出予定日 2024年12月16日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年4月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年5月1日～2024年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期中間期	2,826	21.0	291	△35.2	88	△64.8	49	△76.8	△118	—
2024年4月期中間期	2,335	205.2	449	374.3	252	572.1	212	451.0	△30	—

(注) 包括利益 2025年4月期中間期 57百万円 (△27.9%) 2024年4月期中間期 79百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年4月期中間期	△7.86	—
2024年4月期中間期	△2.03	—

※EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用）

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年4月期中間期	8,108	5,240	58.2
2024年4月期	7,691	5,143	61.5

(参考) 自己資本 2025年4月期中間期 4,716百万円 2024年4月期 4,729百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年4月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年4月期	—	0.00	—	—	—
2025年4月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年4月期の連結業績予想（2024年5月1日～2025年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	23.9	500	10.8	450	22.0	30	—	1.99

(参考) EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用）2025年4月期（通期）1,000百万円

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年4月期中間期	15,073,460株	2024年4月期	15,045,152株
② 期末自己株式数	2025年4月期中間期	481株	2024年4月期	一株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年4月期中間期	15,051,502株	2024年4月期中間期	15,030,317株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国の経済状況は、所得・雇用環境が改善される中、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が期待されているものの、欧米における金利政策による海外景気の下振れや、中東・ウクライナ情勢及び物価の上昇が国内景気に及ぼすリスクが見られる等、先行きが不透明な状況が続いております。

その一方で、情報サービス業界においては、従来なかったスピード感での技術革新や、少子高齢化・生産年齢人口の減少等を受け、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する投資が引き続き拡大を続けています。特に、AI市場においては、OpenAI社による「ChatGPT-3.5」「ChatGPT-4.0」のリリースに端を発した、各産業におけるAIトランスフォーメーション（以下、「AIX」という。）に関する投資の加速が続いており、まさに現在進行形で、LLM（Large Language Model：大規模言語モデル）を含むAIの技術競争・需要拡大・社会実装が急激なスピードで進んでおります。なお、当社グループでは、AIXとは、AIを社会に浸透させることにより、その力を通じて既存の業務プロセスやビジネスモデル等を含めて社会全体に抜本的な変革を起こすこと、と捉えており、LLMを含むAIが当たり前のように社会全体に浸透していく中で、主にBPO市場において、AIを業務ツールとして断片的に使うのではなく、より根本的な価値創造・人とAIの共創がテーマとなる世界が到来しております。

また、SaaS市場においても、導入の需要のみならず、「ニーズの多様化に伴うSaaS間連携」「統合管理の複雑化によるセキュリティ要件の高度化」等に関する需要拡大が見込まれるほか、セキュリティ市場においても、サプライチェーンを狙ったサイバー攻撃や一般企業・病院等を狙うランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）が増加しており、また企業によるクラウドサービスの利用やDX化の推進等もあって、セキュリティ対策は必然となっております。

このような環境の中で、当社グループは、HEROZ3.0として「AI BPaaS」を掲げ、単なるSaaSツール提供会社にとどまらず、生成AI等を駆使し、大幅に自動化されたWorkというかたちで価値提供を行い、社会全体にAIXを起こしていくことを目指しております。

また2024年8月には、当社のグループ会社であるVOIQ株式会社が、bizy株式会社の展開するセールス支援事業等の譲り受けを行いました。本事業譲受を通じて、VOIQ社がグループ全体におけるインサイドセールスの機能を担うとともに、セールス領域・コンタクトセンター領域において、当社グループのAI関連技術を活用し、各種課題の解決を推し進めていきたいと考えております。VOIQ社は、事業譲受後、早々に当社やバリオセキュア株式会社を中心にインサイドセールス機能を担っており、特に当社のBtoB事業においては、当中間連結会計期間後半にかけて商談件数が大幅に増加するなど、スピード感をもってPMI活動を進めております。

なお、セグメント別の経営成績の概況は以下の通りです。

（AI/DX事業）

AI/DX事業は、当社グループに蓄積されたAI・SaaS関連技術・ノウハウ・データ等を活用し、AI関連ソリューションの提供やSaaS導入支援・SaaS間連携開発等を提供することにより各企業・業界のAI/DX化推進を目指すセグメントとなります。

当中間連結会計期間において、当社グループのAI/DX事業については、将棋への注目度向上や日本将棋連盟と連携した企画の実施、稼働案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得等により、収益が拡大しております。

BtoC領域については、もともと市場において有している圧倒的なネットワーク外部性に加え、将棋への注目度向上が続いたこともあり、「将棋ウォーズ」「棋神アナリティクス」「棋神ラーニング」ともに安定した収益を上げました。当中間連結会計期間は、日本将棋連盟が創立100周年の節目を迎えており、将棋ウォーズにおいても、「100周年記念の羽生善治会長アバター」発行や、「達人戦立川立飛杯」でのイベント実施等、日本将棋連盟との連携も強化しております。そのほか、2024年11月の「将棋の日」に合わせて、新規サービス「シーズンパス」をリリースしており、将棋の日を記念した特典も含めて、ユーザーの皆様にお楽しみいただけるコンテンツとなっております。

また、BtoB領域についても、LLMを含むAIやITに関する投資拡大・注目度向上を受け、案件数・引き合いの増加や大型案件の獲得等もあり、収益が拡大しております。新規グループ会社であるVOIQ社のインサイドセールス領域での貢献や、展示会での出展増加等もあり、当社における当中間連結会計期間後半の商談件数は大幅に増加しているほか、当中間連結会計期間の後半にかけて稼働案件数も増加しており、下期以降も更なる成長を見込んでおります。

当セグメントにおいて、LLMの活用・社会実装は事業戦略の中核となるテーマであります。その取り組みとして、2024年5月に生成AIを活用したエンタープライズ向けAI アシスタントSaaS「HEROZ ASK」を本リリースしました。リリース後も、UI・デザインの改善、シングルサインオン・IP制限機能等の各種機能追加に取り組んでいるほか、事業面でも、「AI 人工知能EXPO」をはじめとする各種展示会での出展や、デジタルマーケティング・コンテ

ンツマーケティングの強化等を行い認知向上に努めており、今後も、開発面・事業面が一体となって事業拡大に取り組んでまいります。

（AI Security事業）

AI Security事業は、グループ会社であるバリオセキュア株式会社が提供するインターネットセキュリティ関連の事業となります。

同社は、従来のゲートウェイセキュリティに加え、エンドポイントセキュリティ対策としてサイバー攻撃の兆候を検知するVarioマネージドEDR、増加するランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）から企業の情報資産を守るデータバックアップサービス（VDaP）、社内の通信機器の状況を運用監視し、通信環境を脆弱性から守るマネージドLAN/WIFI等の各種サービスにより、増大する脅威に対して多層防御により安心、安全なビジネス環境の構築を支援してまいりました。

2024年7月には、クラウドからオフィス環境まで対応した、中堅・中小企業の規模に合ったゼロトラストセキュリティサービスとして、「Vario Ultimate Zero」をリリースしており、8月より販売を開始しております。最新のサイバー攻撃を検知・防御可能なセキュリティの担保はもちろん、クラウドからオンプレまで対応可能な柔軟性を兼ね備えており、また、シングルサインオンにも対応しているなど、運用保守の省力化も考慮された新サービスとなっております。こちらを新たな主力サービスとして、新規でグループ入りしたVOIQ社とも連携しつつ拡販活動を進めております。

また同社は、2024年2月期から2026年2月期にかけて、中期経営方針のもと「マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化」「成長セキュリティ市場への参入」「既存販売網と異なる新規営業体制の強化」を掲げ、人材の獲得、サービス企画・事業開発の強化、ソフトウェア開発等の事業投資を行う計画を公表し、実現に向けての取り組みを行っております。

費用面に関しては、コーポレート機能については適切なコストコントロールを進めましたが、事業・サービス拡大に伴う人材採用強化による人件費等の増加、また新規プロダクト（HEROZ ASK・JOINT）への先行投資等により、売上原価・販売費及び一般管理費は増加しております。また、主にグループ会社のバリオセキュア社において繰延税金資産を追加計上したこと等により、連結全体でも法人税等調整額が増加しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は2,826,856千円（前年同期比：21.0%増）となり、EBITDA（注）291,310千円（前年同期比：35.2%減）、営業利益88,850千円（前年同期比：64.8%減）、経常利益49,326千円（前年同期比：76.8%減）、親会社株主に帰属する中間純損失は118,275千円（前年同期は30,504千円の損失）となりました。

当社グループの当中間連結会計期間におけるセグメント別の損益状況については、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」をご参照ください。

（注）EBITDA：営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ416,834千円増加し、8,108,068千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少758,902千円があったものの、預け金の増加1,022,159千円があったこと等によります。

（負債の部）

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ319,121千円増加し、2,867,280千円となりました。これは主に、短期借入金の増加200,000千円及び長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加350,338千円があったこと等によります。

（純資産の部）

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ97,713千円増加し、5,240,787千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少118,275千円があったものの、その他有価証券評価差額金の増加81,386千円、非支配株主持分の増加103,741千円があったこと等によります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、3,002,724千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動の結果使用した資金は、16,602千円（前年同期は108,541千円の収入）となりました。主な内訳は、減価償却費107,604千円、のれん償却費75,949千円、未払金の減少63,472千円及び法人税等の支払額94,540千円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、271,941千円（前年同期は148,594千円の使用）となりました。主な内訳は、無形固定資産の取得による支出174,656千円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動の結果得られた資金は、549,835千円（前年同期は206,738千円の使用）となりました。主な内訳は、短期借入れによる収入200,000千円、長期借入れによる収入500,000千円及び長期借入金の返済による支出149,662千円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年4月期の連結業績予想につきましては、2024年6月14日に公表いたしました連結業績予想の数値から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (2024年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,738,013	1,979,111
預け金	—	1,022,159
売掛金及び契約資産	798,201	822,541
棚卸資産	191,929	146,272
その他	269,144	312,135
流動資産合計	3,997,288	4,282,219
固定資産		
有形固定資産	262,134	237,991
無形固定資産		
のれん	1,963,704	1,950,194
ソフトウェア	156,670	536,779
ソフトウェア仮勘定	427,173	166,877
無形固定資産合計	2,547,548	2,653,851
投資その他の資産	884,261	934,005
固定資産合計	3,693,944	3,825,848
資産合計	7,691,233	8,108,068
負債の部		
流動負債		
買掛金	136,442	139,480
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	215,984	382,664
未払法人税等	103,186	56,096
賞与引当金	37,577	41,401
契約損失引当金	50,597	—
株主優待引当金	20,605	17,624
その他	603,667	519,651
流動負債合計	1,168,061	1,356,919
固定負債		
長期借入金	1,188,072	1,371,730
繰延税金負債	6,008	6,008
退職給付に係る負債	7,980	8,940
その他	178,037	123,682
固定負債合計	1,380,097	1,510,361
負債合計	2,548,159	2,867,280
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,784	37,452
資本剰余金	5,305,332	5,313,798
利益剰余金	△618,113	△736,389
自己株式	—	△152
株主資本合計	4,709,003	4,614,710
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,571	101,958
その他の包括利益累計額合計	20,571	101,958
新株予約権	58,912	65,789
非支配株主持分	354,587	458,328
純資産合計	5,143,074	5,240,787
負債純資産合計	7,691,233	8,108,068

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）	当中間連結会計期間 （自 2024年5月1日 至 2024年10月31日）
売上高	2,335,506	2,826,856
売上原価	1,142,338	1,552,838
売上総利益	1,193,168	1,274,018
販売費及び一般管理費	941,101	1,185,167
営業利益	252,067	88,850
営業外収益		
受取利息	18	305
為替差益	—	727
還付加算金	11	—
その他	731	3,188
営業外収益合計	761	4,221
営業外費用		
支払利息	5,447	7,912
投資有価証券運用損	10,786	13,535
株主優待関連費用	11,896	19,928
貸倒引当金繰入額	7,000	—
その他	4,867	2,369
営業外費用合計	39,998	43,745
経常利益	212,829	49,326
税金等調整前中間純利益	212,829	49,326
法人税、住民税及び事業税	128,096	45,210
法人税等調整額	6,457	27,913
法人税等合計	134,554	73,123
中間純利益又は中間純損失（△）	78,275	△23,796
非支配株主に帰属する中間純利益	108,779	94,478
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△30,504	△118,275

(中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
中間純利益又は中間純損失(△)	78,275	△23,796
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,643	81,386
その他の包括利益合計	1,643	81,386
中間包括利益	79,918	57,590
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△28,860	△36,888
非支配株主に係る中間包括利益	108,779	94,478

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	212,829	49,326
減価償却費	82,647	107,604
のれん償却額	90,066	75,949
敷金償却	1,482	1,268
株式報酬費用	20,428	17,637
受取利息及び受取配当金	△18	△305
出資分配金	△14	△15
支払利息	5,447	7,912
投資有価証券運用損益(△は益)	10,786	13,535
固定資産売却損益(△は益)	4,476	△340
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,488	3,824
契約損失引当金の増減額(△は減少)	—	△50,597
株主優待引当金の増減額(△は減少)	10,963	△2,981
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	960
売上債権の増減額(△は増加)	△100,724	△24,294
棚卸資産の増減額(△は増加)	△31,292	45,656
前渡金の増減額(△は増加)	14,309	△46,263
前払費用の増減額(△は増加)	7,848	4,629
仕入債務の増減額(△は減少)	7,966	3,038
未払金の増減額(△は減少)	17,588	△63,472
未払費用の増減額(△は減少)	△21,161	△15,046
未払又は未収消費税等の増減額	4,011	11,564
預り金の増減額(△は減少)	△1,825	518
長期前払費用の増減額(△は増加)	△20,977	12,596
長期前払金の増減額(△は増加)	5,434	4,923
長期前受金の増減額(△は減少)	△55,579	△47,267
契約負債の増減額(△は減少)	△4,883	△29,819
その他	△258	4,981
小計	262,040	85,523
利息及び配当金の受取額	18	305
出資分配金の受取額	14	15
利息の支払額	△5,406	△7,907
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△148,124	△94,540
営業活動によるキャッシュ・フロー	108,541	△16,602
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△34,291	△37,001
有形固定資産の売却による収入	252	350
無形固定資産の取得による支出	△134,389	△174,656
投資有価証券の取得による支出	—	△30,000
敷金及び保証金の回収による収入	25,534	4,996
投資事業組合からの分配による収入	1,299	4,168
貸付けによる支出	△7,000	—
事業譲受による支出	—	△40,000
子会社株式の売却による収入	—	200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△148,594	△271,941

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	200,000
短期借入金の返済による支出	△780	—
長期借入れによる収入	—	500,000
長期借入金の返済による支出	△101,560	△149,662
自己株式の取得による支出	△101	△152
非支配株主への配当金の支払額	△104,296	△349
財務活動によるキャッシュ・フロー	△206,738	549,835
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△246,791	261,291
現金及び現金同等物の期首残高	3,798,391	2,741,433
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,551,600	3,002,724

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2023年5月1日 至 2023年10月31日）

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,029,930	1,305,575	2,335,506	—	2,335,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,867	462	9,330	△9,330	—
計	1,038,798	1,306,037	2,344,836	△9,330	2,335,506
セグメント利益	321,554	431,759	753,314	△501,247	252,067

(注) 1. セグメント利益の調整額△501,247千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間（自 2024年5月1日 至 2024年10月31日）

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,472,432	1,354,424	2,826,856	—	2,826,856
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,749	—	1,749	△1,749	—
計	1,474,181	1,354,424	2,828,605	△1,749	2,826,856
セグメント利益	261,163	416,741	677,905	△589,054	88,850

(注) 1. セグメント利益の調整額△589,054千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。